

早くも2月が終わろうとしています。皆様お風邪などひかれてはいないですか？
なかなか暖かい日が訪れず、まだ冬真只中という今日この頃ですので、今日は雪の絵本を紹介したいと思います。

『ゆき』

ユリ・シュルヴィッツ さくま ゆみこ訳 あすなろ書房 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

はい色の冬の空。ほら、空からひとひらのゆきがまいおりてきました。テレビやラジオでは「ゆきはふらないでしょう」といっていますが、ゆきはひとひら、そしてもうひとひらとじめんにおちていきます。そのうちじめんも、おとなたちも、やねも、しろいぼうしをかぶり、ゆきがやんだ町はまっしろにかがやくのです。

<子どもに手渡すときのポイント>

雪が降り始めるのを経験した子どもであれば、誰でも目にしたことがある風景。空からまずひとひらの雪が、そしてもうひとひら・・・と積もり、雪が止んだあとにはまっしろに輝く町が広がる。そんな、美しい雪の風景を男の子の目を通して美しく描いた絵本です。よみきかせをする場合、空から落ちてくるひとひらの雪の絵は遠くの子どもには見えませんが、子どもたちは自分の経験の中で見た雪を思い起こして聞いてくれています。さくまゆみこ氏による美しい訳文も子どもたちの想像力を雪の世界へと導いてくれます。ぜひ声に出して読んでみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか